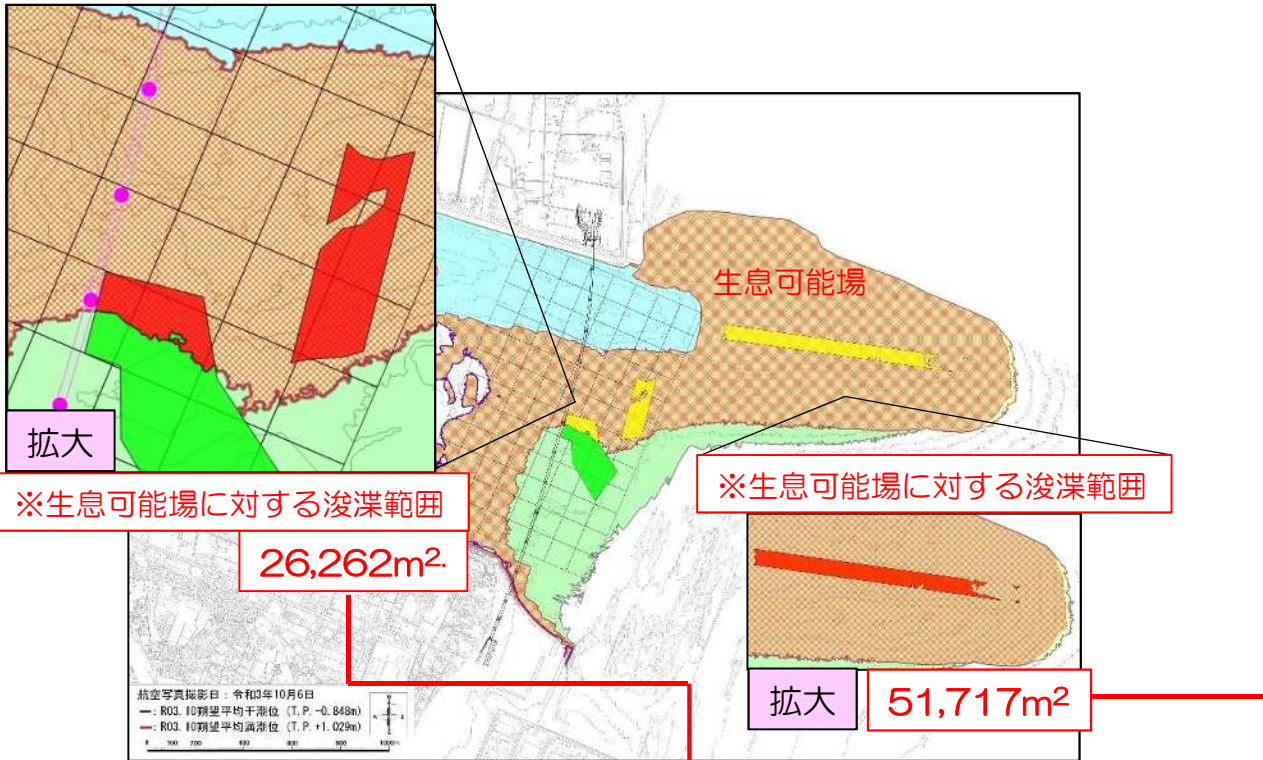


# ■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種に対する影響評価～



仮設桁撤去に伴う浚渫範囲に対して、ハビタット区分1では**フジノハナガイ**の生息可能場に対して4.1%、**バカガイ**に対して4.2%、**ヒサシソコエビ科**に対して4.2%の影響になることが予測された。

## ■ 例：フジノハナガイの生息可能場に対する仮設桁撤去に伴う浚渫範囲



フジノハナガイは、波乗りしながら移動する貝類であり比較的地盤高の高い砕波帯周辺に出現する種である（＝生息可能範囲がより狭い）。浚渫は台船の吃水の確保のため、地盤高が高い箇所に対して行う行為であることから、**フジノハナガイに対しては特に注目**する必要があると考えられる。また、小松海岸におけるバックアップ調査では、フジノハナガイが一定数確認されており、**十分にバックアップ可能であると判断**できる。



～ まとめ ～  
**ハビタット区分1の浚渫の影響評価結果**

最大で

- ・バカガイ 4.1%
- ・フジノハナガイ 4.2%
- ・ヒサシソコエビ科 4.2%

の影響を推定（※定量評価）

小松海岸周辺を対象としたバックアップ調査で、フジノハナガイは一定数確認された。

項目	バカガイ	フジノハナガイ	ヒサシソコエビ科
生息可能場面積 (m <sup>2</sup> )	1,897,003	1,845,490	1,845,490
浚渫面積 (m <sup>2</sup> )	77,979	77,979	77,979
浚渫の影響評価	4.1%	4.2%	4.2%

